

# 妙安寺だより 326

テレフォン法話 092-751-6084 (毎週月曜日に話が変わります)

## 〔お施餓鬼の由来〕

お施餓鬼の由来については、「」という経典に、次のように説かれています。お釈迦さまの十大弟子の一人に、お釈迦さまの法話を一番多く聞いたというところから、第一といわれたという方がおられました。

あるとき、阿難尊者は、静かな森の中で一人していると、突然、目の前にせえ、腹は大きくれ、手足は針金のように細く、髪は逆立ち、口からはを出したいのという餓鬼があらわれ、「お前は三日のうちに死ぬ。そして、私のような醜い餓鬼に生まれ変わるであろう」

と告げたのです。阿難尊者は、びっくりして

「どうすれば、その苦しみから免れることができるのでしょうか」と、問いただすと、焰口は「餓鬼道で苦しんでいる我々にたくさんのを施し、三宝に供養すれば、その功德によってお前や餓鬼道で苦しむ我々も一緒に救われるであろう」と阿難尊者に告げ、その場を立ち去って行きました。

阿難尊者は驚き、恐ろしくなって、お釈迦さまのもとにいき、このことを伝え、どうしたらよいかお尋ねしました。お釈迦さまは

「施餓鬼棚に新鮮な山海の飲食をお供えし、修行僧に施餓鬼会の法要を営んでもらいなさい。修行僧のお経の法力によって、少量の供物は無量の供物となり、すべての餓鬼に施されるであろう。そして、多くの餓鬼は救われ、お前も長寿を得られ、悟りを開くこともできるであろう」

とお答えになりました。

さっそく、阿難尊者は、お釈迦さまの言われた通りに、施餓鬼棚を設け、山海の飲食をお供えし、供養を営みました。

命は助かり、悟りも開かれ、お釈迦さまの弟子の中で最も長生きされたそうです。

これがお施餓鬼の始まりです。

これが、中国に伝わり頃の頃、水陸に食物を投げてお施餓鬼の法要を勤めたことから「水陸会」とも言われるようになり、日本では、鎌倉時代以後、地獄思想が普及するにつれて、亡き人の霊を慰めるために施餓鬼会が営まれるようになりました。

# 宗祖御報恩お法要の案内

10月23日(日曜日)

正 午より お (昼食の準備をしております)

午後1時より 宗祖御報恩お会式法要

午後2時 法 話

講 師 愛媛県宇和島市妙典寺住職  
植 田 芳 明 僧正

※お会式の説教の講師は、遠来より要請しております。  
一人でも多く参拝しご聴聞をお願い申し上げます。

## 平成24年度の地涌の声「功德主」の募集

平成24年度の地涌の声「功德主」の募集を致します。

ひと月 5000円です。(300通、各檀信徒へ寺報とともに配布)

申し込みご希望の方は、早めに(希望つきの2ヶ月前)お願いします。

※同じ月になった場合は、先着順になりますのでご了承ください。

4月・12月は、申し込み済みです。